

8月2日(月)

神にこそ信頼を置く

聖書朗読 詩篇 90:1~10

私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。
ピリピ 4:12~13

私たちの人生は、一瞬にして変わってしまう場合があります。そもそも、私たち人間は、近い将来に関してさえ、正確に予測することは不可能なのです。そして、私たちが他の人々の人生を決定していくことも、また不可能なことです。モーセは、そうした「人の歩みの不確実性」を身に染みて感じていたのではないかと思います。しかしモーセは、「確かなお方」である神に心の目を注ぐことを忘れませんでした。

モーセは、見通しが不確実で予断を許さないような危機的状況においても、神様にこそ信頼・信仰を置くべきであることを、確信していました。モーセの祈りは、「すべてを支配なさっていて、この世のどんな問題よりも大いなるお方である神様」への祈りでした。モーセは、モーセ自身が今後どのような歩みをしていくことになるのか、良く分からなくても、神様こそモーセに慰めと力を与えて下さるお方であることを、心に刻んでいました。

私は、母の不慮の死を経験しました。(勿論、それはとても悲しい出来事でしたが)そうした出来事を通して私が実感したことの一つは、神様はすべてをご支配なさっており、すべてを知っておられる、ということです。神様は、愛する者を失うことがどんなにつらいことか、ご存知です。まず神様ご自身が、(私たち人間の救いのために)愛する御一人子を、十字架にお送り下さり捧げて下さったからです。

私たちの人生が、15年であろうと65年であろうと95年であろうと、大切なことは同じです——大切なことは、「神様にこそ信頼を置き、神様に対し従順である」ということです。神様は、私たちの罪や煩いをご存知です。そして、それらの罪や煩いを、神様にゆだねてほしいと願っておられるのです。私たちは、私たちの歩みが今後どのようなになるのか正確にそして具体的に予測することは出来ませんが、神様こそ私たちを確実に導いて下さるお方であることを心に刻み、神様にこそ、抛り頼んで参りましょう。

讃美歌 522

祈り 愛するお父様、困難な時にこそ、あなたに心の目を注ぎ、あなたによって支えられ生きていくことが出来ますよう、助けて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

マーク・A・ヤング
ワシントン州モクシー

今日の日

2021年8月2日~8月8日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

8月3日(火)

神様の愛

聖書朗読 詩篇 92篇

あなたは御手を開き、すべての生けるものの願いを満たされます。

詩篇 145:16

最近、私の娘と孫たちがこんな経験をしました。娘の家で飼っている猫が、たまたまやって来た幼鳥を襲おうとしていたので、その幼鳥を保護したのです。その場に放すとまた猫に襲われる危険があったので、娘と孫たちは、少し離れたところに住んでいる私の息子の家の近くまで行って、そこで幼鳥を放すことにしました。

到着すると、孫たちは、他の鳥たちが沢山とまっている大きな木のそばに切り株があるのを見つけました。孫たちはその切り株に、幼鳥をそっと置いて放しました。車に戻り、様子を窺っていると、幼鳥がさえずり、その次の瞬間、木にとまっていた鳥が一羽飛んできて、幼鳥に食べ物を与えました。そして、その行為は何度も繰り返されました。それを目撃した孫たちは、見ず知らずの幼鳥の面倒を見る鳥に感動したのです。これこそまさしく、神様の愛と守りのように感じました。

神様は、私たちが人生において何らかの試練に出遭った時でも、私たちをお見捨てにはならず、いつも変わらず愛し続け、守って下さいます。私たちはその試練を必ずしも「意味のない出来事」だと決めつける必要はありません。試練を通して、神様の愛や導きについて深く知る場合もあるからです。試練の時にこそ、神を崇め、神様に拠り頼みましょう。

讚美歌 II編167

祈り 親愛なる神様、いつも私たちに対して誠実でいて下さることに感謝します。試練に出遭う時、どうか励ましてください。そして、全てをご支配なさっているのはあなただと言うことを思い起こさせて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

アニータ・プライス
テキサス州ラボック

8月4日(水)

強くされる

聖書朗読 詩篇 92:1~8

試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。ヤコブ 1:12

人生が喜びに溢れて全て順調な時、「祈ること」は私たちにとって、そんなに難しいことではありません。きっとこう祈るのではないのでしょうか。「神様、喜んで御名を賛美します。あなたに感謝します。あなたの御名をほめ歌い、朝に夕に、あなたの恵みそしてあなたの誠実さを賛美します」と。

しかし、自分の意に反したことが起こった時、同じように祈ることは難しいかもしれません。むしろ、こう祈るのではないのでしょうか。「神様、御心を理解することは私には難しすぎます。なぜ、私が失業しなければならないのでしょうか？ どうやって家族を養っていけば良いのでしょうか？ なぜ私がお家を失わなければならないのでしょうか？ どうしてこのようなことが私たちの身に降りかかるのでしょうか？」

このような時は、(祈りつつ) 神様の手をひたすら握って待ちましょう。神様の手を握りながら神様と共に歩むと、神様は私たちを「野牛と同じぐらい強く」して下さり、「レバノン杉のように成長」させて下さいます。たとえ歳を取っていても、私たちの心は「若くて健康な木のように」させられます(詩篇92篇参照)。このように、試練において私たちは、神様によって支えて頂くのです。そして、「神によって支えられている私たち」を見た周りの人々は、神様の素晴らしさについて知ることになるでしょう。そして試練を通してこそ、「神様こそ私たちに支える岩(人生の土台)である」と私たち自身、改めて確信することになるのです。

使徒パウロの人生は、苦しみに溢れた人生でした。それにもかかわらず、パウロは前に進み続けることが出来ました。そして、次のように言うのです。「しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです」(ローマ8:37)。私たちも、神様によって、勝利者とさせて頂きましょう。

讚美歌 298

祈り 主よ、わたしはあなたを慕います。どのような試練に置かれたとしても、あなたに全幅の信頼を置くことが出来ますよう、助けて下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ディック・アディ
オレゴン州グレシャム

8月5日(木)

深く根付く

聖書朗読 詩篇 92:8~15

こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが・・・
エペソ 3:17

春になると、私の家の周りがある木々は何百万もの種子を生み出します。それらは木から落ち、歩道の亀裂、生け垣、フェンスの脇、そして私の花壇など様々な場所で根を下ろし、雑草となります。まだ根が浅いうちは、簡単に取り除くことができます。

しかしながら、落ちた種を取り除いているつもりでも、春が来ると、毎年のように雑草が生い茂ります。植物の種子は、取り除きそびれると、やがて地中深くに根を下ろして、抜くことが困難になってしまいます。花壇の中は、むやみに除草剤を撒くこともできません。毎年のように雑草が茂るので、本当に困ります。

聖書は、私たちの心を肥沃な土壌にたとえています。雑草の種が根付くように、沢山の「神に喜ばれないこと」が私たちの心に根付くことがあります。例えば、食欲さ、嫉妬、敵意などです。そして、一旦それらが心(という土壌)に根付いてしまうと、それらを完全に除去することは、容易ではなくなります。雑草の種子のように、根を張っていないうちは抜きやすいですが、根付いた後だと難しくなります。

パウロによると、私たちの心(という土壌)は肥沃で、霊的な(神に喜ばれる)実を豊かに結ぶことも出来ます。「神に喜ばれないこと」で私たちの心を満たしてしまうのではなく、神様の愛によって、私たちの心を満たして頂き、霊的な実を豊かに実らせたいものです。

讃美歌 352

祈り 神様、どうか私たちの心を愛で満たし、「肉の思い」が育つことのないようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

マデライン・ピーターソン
ネブラスカ州ハスティンクス

8月6日(金)

海の支配者

聖書朗読 詩篇 93篇

彼らは大きな恐怖に包まれて、互いに言った。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」
マルコ 4:41

私たち人間は、昔から海的美しさや力に惹きつけられてきたようです。実際、世界の人口の約80%は、海岸から約97km以内の場所に住んでいます。海は、地球表面積の71%を占め、地球上の水分の97%を占めています。また、地球上最も壮大な地形とも言える海嶺は、合計すると約6,440kmもの距離になります。しかし詩篇93篇の作者は、そのような海の壮大さに触れつつも、海よりもさらに大いなるお方(神様)を賛美しています。神様こそすべてを支配なさっている王であられ、「大水のとどろきにまさり、海の力強い波にもまさって・・・主は、力強くあられます」(4節)と、詩篇93篇の作者は神をほめたたえています。

壮大な海を創造なさった神様の力とは、一体どれほどの力なのでしょう。実際、イエス様が、嵐の際「黙れ、静まれ」(マルコ4:39)と風と海を叱りつけられると、海はその通りになりました。「神様がいかに大いなるお方であられるのか」について、私たち人間の限られた知識や経験からでは、理解し尽くすことは出来ません。神様は、常に、すべてに勝って力強く、大いなるお方です。だからこそ、私たちは神様を畏れ、驚き、賛美し、崇めるのです。壮大な海を眺める時(たとえそれが写真や映画を通してであっても)、壮大な海よりも大いなる神様(創造主なる神様)への賛美の思いを、新たにいたしましょう。

讃美歌 II編161

祈り 親愛なる神様、御名を賛美します。この地上でのあらゆるものを創造して下さり、感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ラレンダ・ライルス・ロバーツ
アリゾナ州メサ

8月7日(土)

賛美する

聖書朗読 詩篇 95篇

来たれ。私たちは伏し拝み、ひれ伏そう。私たちを造られた方、主の御前に、ひざまずこう。
詩篇 95:6

ダニエル書6章では、ダニエルに対して企てられた陰謀について書かれています。ダニエルは、並外れた霊的資質を持ち、それゆえ(大臣に任命されるなど)活躍を果たしていました。そして、そんなダニエルを妬む人々が陰謀を企てたのです。この陰謀により、ダリヨス王は次のような法令を出しました。すなわち、「いかなる神にも人にも、リヨス王以外に祈願をする者はだれでも、獅子の穴に投げ込まれる」という法令です(参照、ダニエル6:7)。

ダニエルは、その法令に背くことがどんなに危険な事か分かっていました。しかし、神様の御名を賛美することを止めませんでした。「ダニエルは、その文章の署名がされたことを知って自分の家に帰った。——彼の屋上の部屋の窓はエルサレムに向かってあいていた。——彼は、いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝していた(10節)」。ダニエルは、誰よりも神様を信頼していたことが分かります。そして後に、王を含む誰もが、「ダニエルが仕える神様こそが、まことの神である」と確信することになるのです。獅子の穴に投げ込まれたダニエルでしたが、神様は獅子の口をふさいでくださり、ダニエルは無傷でした。

私たちが、自分たち自身の礼拝について考える際、私たちの心がしっかりと神様に向けられているか、再確認してみましょう。「私たちの日常生活に神が共にいて下さる」ということに、いつも気付いていたいものです。そしてダニエルの態度が周りの人々に神を指し示したように、私たちの賛美や礼拝が、まことの神様を人々に証しする上で用いられますように。

讃美歌 4

祈り 親愛なる神様、私たちの賛美や礼拝が、私たちの真心からさ捧げられますように。礼拝者として、私たち一人一人を整えて下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ブルーデンス・C・ウィリアムス
フロリダ州ジャクソンビル

8月8日(日)

同じ価値観

聖書朗読 詩篇 96篇

天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。 詩篇 19:1

外出で玄関のドアを開ける際、妻は、心底嬉しそうに「なんてキレイな空なのでしょう。とても美しいわ」とよく言っていました。それに対して私は、「毎日同じ空のように見えるけど……。ちょっと明るいか暗いかの違いはあると思うけど」と、そっけない反応をしていました。妻は、どのように空が「美しい」のか説明することは出来ませんでした。また、嵐が近づいているかのような空であっても「美しい」と言い、それがなぜ美しいのか、説明は出来ませんでした。時が経ち、私は、妻がなぜ空を見る度に「美しい」と言っていたのか、少し理解できるようになりました。妻は、(空が澄んでいるか、曇っているかは関係なく)「神様が造られた空」だから「美しい」と言っていたのだと思います。

やがて私は歳を取り、独り身になりました。私は、空を見ると、以前よりも美しく感じます。ですが、私はその理由を説明することは出来ません。私自身の価値観が変わったこともあるでしょう。また、(妻を亡くしたことで)流した涙を通して見る空は、以前とは違って見えるのかもしれませんが。御国で妻に再会する時には、共に空を見ることでしょう。そしてその時には、同じ価値観で空を見る事が出来ると思います。彼女は緑色の目、私は茶色の目です。目の外観は違いますが、同じ価値観を共有して空を見上げることが出来ると思います。

万物の創造主であるイエス様は、私たちに見るための目を与えて下さいました。そして、バプテスマにより生まれ変わった時、全てのものは新しい価値観で目に映ります。私たちは真理を見る目を与えられ、感謝する心が与えられ、神に奉仕したいという気持ちが与えられます。そして、イエス様が愛をもって人々をご覧になったように、私たちも愛をもって周りの人々を見る事が出来るようになるのです。なんと霊的に豊かな人生でしょうか!

讃美歌 90

祈り 親愛なる神様、あなたが創造して下さった自然——太陽や月、星や大空、等々——は、本当に美しく、あなたの御業に感謝します。救いの機会を私たちに与えて下さったことに感謝し、そして天の御国の約束を、感謝いたします。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジョージ・F・ドーアティ
テキサス州タイラー